

④福祉協力員

福祉協力員は、高齢者等の見守り・声かけ活動や地域住民への情報提供等を行う地域のボランティアで、丸亀市長から委嘱され、1,066人（平成27年7月現在）の福祉協力員が民生委員等と連携しながら活動しています。

⑤自治会

自治会は、地域住民の自主的な意思に基づき、地域を快適で住みよくするために結成された任意の団体であり、コミュニティづくりの中心的な担い手です。

自治会は、地域住民の親睦と連携の場であるとともに、地域課題の発見と解決の場にもなっています。

■自治会の主な活動

- ・地域の伝統的な行事
- ・交通安全活動
- ・防火・防犯・防災活動
- ・清掃活動
- ・スポーツや文化のサークル活動 など

【自治会数・加入率の推移】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
自治会数	840	839	842	846	846	850
加入世帯数	26,604	26,320	25,590	25,317	25,303	25,002
加入率（％）	62.6	61.6	59.3	58.1	57.7	56.6

資料：丸亀市市民活動推進課（各年4月1日）

⑥NPO

NPOとは「Non Profit Organization」または「Not for Profit Organization」の略称で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称です。このうち、特定非営利活動促進法に基づき法人格を取得した法人をNPO法人といいます。

丸亀市においても多くのNPO法人が福祉活動をはじめ様々な活動を行っています。

⑦ボランティア団体

ボランティアは、子ども、高齢者、障がい者など様々な人が、特技や技術、経験などを活かして、地域や施設等で様々な活動を行っています。

社会福祉協議会は、「ボランティアセンター」を設置して、ボランティア活動に関する相談や情報提供、活動先のあっ旋、講座やセミナーなどの学習機会を設け、ボランティア活動の推進に努めています。

⑧当事者団体

地域の中には、高齢者、障がい者、子ども、子育て中の方など様々な人が暮らしており、それぞれに悩みごとなどを抱えている方もおられます。

当事者団体は、同じ悩みや問題などを持つ人たちが集まり、交流や親睦を深め、お互いの経験などの分かち合いを通じて自己決定や自己実現を行うなど、自立した生活や社会参加を促す役割を担っています。

2. 丸亀市におけるこれまでの取り組み

地域福祉計画及び地域福祉活動計画（前計画）の体系に基づき、これまでの市（行政）及び社会福祉協議会の取り組みを整理すると以下のとおりです。

（1）市（行政）が丸亀市地域福祉計画で取り組んだこと

前計画の基本目標 1. 人と人が支え合い、安心して暮らせるまちづくり

■福祉教育の推進

- ・ 幼稚園、学校において福祉教育を推進しました。
- ・ 社会福祉施設等でのボランティア体験学習や交流学习を実施しました。

■生活環境の整備

- ・ 公共施設等におけるバリアフリー化を推進しました。
- ・ 地域における防災活動を支援しました。
- ・ 社会福祉協議会、民生委員・児童委員と連携して、災害時に支援が必要な対象者の情報把握に努めました。

■地域福祉の啓発及び広報の推進

- ・ 住民に対する幅広い広報・啓発活動を推進しました。
- ・ 住民一人ひとりが福祉の心を育むよう、地域福祉活動の取り組みを支援しました。
- ・ 生涯学習などの機会において、人権意識・福祉意識の高揚を図りました。

前計画の基本目標 2. 福祉サービスが利用しやすいまちづくり

■福祉サービスの基盤づくり

- ・ 高齢者、障がい者、児童の各分野別計画の目標値に応じたサービス基盤の整備や民間事業者及び各種団体などのサービス提供者の育成に努めました。
- ・ 利用者の利益を保護するため、民間事業者も含めたサービスの質の確保に努めました。

■サービス利用を支援するシステムの構築

- ・ 誰もが相談しやすいよう気軽な相談体制の充実に努めました。
- ・ 権利擁護や成年後見制度の周知啓発を図りました。
- ・ 社会福祉協議会や関係機関と連携して、虐待防止ネットワークの構築に努めました。
- ・ 苦情処理体制の整備に努めました。
- ・ 住民の多様なニーズに対応するため、保健・医療・福祉等の連携体制の確立に努めました。

■情報提供体制の整備

- ・ 住民にわかりやすい情報提供を進めました。
- ・ 広報紙やホームページにおいてユニバーサルデザイン化を推進しました。

前計画の基本目標3. みんなが地域活動に参加するまちづくり

■ ボランティア活動への支援の充実

- 社会福祉協議会と連携し、ボランティア養成講座を開催しました。
- 学校等との連携により、子どもたちのボランティア意識の高揚に努めました。
- ボランティアに関する情報提供を行いました。

■ 社会活動への参加促進

- 高齢者が趣味の活動や地域活動に参加しやすいような環境整備を支援しました。
- 自治会の重要性の啓発・広報を行い、自治会への加入促進を図りました。また、社会福祉協議会と連携して、自治会活動の支援に努めました。

■ 世代間交流の促進

- 地区コミュニティセンター等を交流拠点としたふれあい機会の創出に努めました。

■ 民生委員・児童委員等、NPO活動との連携

- 地域と行政のつながり役となる民生委員・児童委員等の活動に関する情報の普及に努めました。
- NPOの活動を側面から支援しました。

(2) 丸亀市社会福祉協議会が地域福祉活動計画で取り組んだこと

前計画の基本目標 1. 人と人が支え合い、安心して暮らせるまちづくり

■地域づくりの推進

- ・ 「災害時要援護者福祉マップ」の活用・充実
- ・ 無料専門相談の充実（弁護士相談・司法書士相談・介護相談）
- ・ 「ふれあい・いきいきサロン」活動の充実・発展
- ・ 地区社会福祉協議会との連携による住民参加活動の充実
- ・ 小地域見守りネットワーク活動体制の整備
- ・ 障がい児（者）活動援助事業
- ・ 高齢者等への友愛訪問活動

（前計画以外に取り組んだこと）

- ・ 地域福祉活動計画の策定（ふくし井戸端会議の開催）
- ・ 地区担当職員の配置
- ・ コミュニティソーシャルワーク（CSW）研修による人材育成
- ・ 企業連携型巡回見守り活動
- ・ 福祉情報メール（情報♡ほっとメール）の配信
- ・ 救急医療情報キット（安心キット）の設置
- ・ 買物支援事業
- ・ たすけあいサービス事業
- ・ 家具転倒防止器具設置支援事業
- ・ 高齢者外出支援事業
- ・ ひとり暮らし高齢者居場所づくり事業
- ・ 多職種連携に向けた「社会福祉セミナー」、 「見守りネット講演会」の開催
- ・ レクリエーション機材貸出し
- ・ マイクロバス貸出事業
- ・ 地域の拠点づくり（丸亀市保健福祉センターの管理運営：丸亀・飯山・綾歌）

■ボランティア事業の推進

- ・ 広報・啓発活動
- ・ ボランティア相談・登録・斡旋事業
- ・ 災害ボランティア活動支援体制の整備
- ・ ボランティア保険の加入促進
- ・ 住民のボランティア活動への理解・促進

（前計画以外に取り組んだこと）

- ・ 子どもふくしセミナー・ふれあいワークキャンプの開催
- ・ 高齢者疑似体験グッズの貸出し
- ・ バリアフリー教室への参加協力

■広報・啓発活動の推進

- ・ 社協だより「かけはし」の発行
- ・ 社会福祉大会の開催
- ・ ふくしフェスティバルの開催
- ・ ホームページ等による積極的な情報の提供

（前計画以外に取り組んだこと）

- ・ 事務局通信の発行
- ・ 社会福祉協議会PRキャラクター「オルデ」の制作

■社会福祉関係団体・運動との連携支援

- 共同募金運動並びに歳末たすけあい運動の実施協力
- 社会福祉関係団体等の活動支援

(前計画以外に取り組んだこと)

- 丸亀市民生委員児童委員協議会連合会事務局の運営
- 丸亀市福祉ママ会議連合会事務局の運営
- 丸亀市身体障害者福祉連合協議会事務局の運営
- 丸亀市共同募金委員会事務局の運営

前計画の基本目標2. 住民の立場に立った福祉サービスの提供

■在宅福祉サービス事業の推進

- 日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護）
- 生活支援配食サービス事業
- 車いすの貸出し

(前計画以外に取り組んだこと)

- 成年後見事業「後見センターまるがめ」（法人後見事業）
- 市民後見人の活動支援

■低所得世帯に対する支援事業

- 助け合い金庫貸付事業
- 生活福祉資金貸付事業
- 歳末見舞金支給事業

(前計画以外に取り組んだこと)

- 生活困窮者自立促進支援モデル事業「自立相談支援センターあすたねっと」（相談支援事業、家計支援事業、学習支援事業）
- 食糧支援事業

■介護サービス事業の充実

- 介護保険事業（訪問介護・訪問入浴介護・通所介護・居宅介護支援）
- 受託運営事業（軽度生活援助・生活管理指導員派遣・子育てホームヘルプ・移動支援・生きがいデイサービス）
- 障がい福祉サービス事業（居宅介護・重度訪問介護・同行援護）
- 利用者保護及び事業の透明性確保のための苦情解決事業

(前計画以外に取り組んだこと)

- 介護事業中期3カ年計画の策定
- 介護保険外訪問介護サービス事業

■子育て支援事業の推進

- ファミリー・サポート・センター事業（マッチング、会員養成講座、会員交流会）
- (前計画以外に取り組んだこと)
- 子育て世代支援事業（おやこカフェ）
 - しおや保育所の経営（一時預かり事業、延長保育促進事業、保育所地域活動事業、障がい児保育事業）

3. 第2次計画に向けての主な課題

現状分析、市民アンケート調査、ふくし井戸端会議（住民座談会）、関係団体ヒアリング調査等からみえる第2次計画に向けての主な課題を整理すると、以下のとおりです。

①少子高齢化がさらに進行します

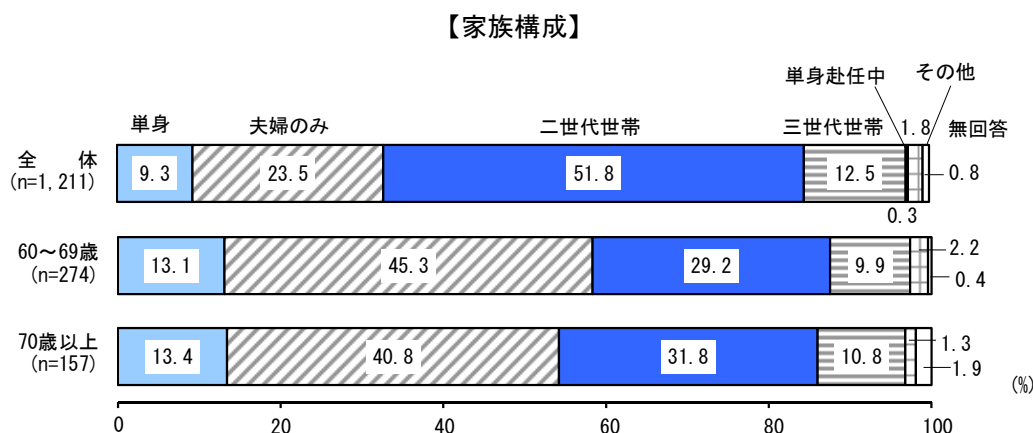
丸亀市は今後10年間で高齢者が大きく増加すると見込まれており、10年後には団塊の世代の全員が75歳以上となることから、後期高齢化率も急速に進んでいきます。元気で意欲的な高齢者の力を活かしつつ、増加する生活支援や介護のニーズに適切に対応できるしくみを、早急につくっていく必要があります。

一方で、子どもの数は減少しつづけています。安心して子どもを産み、育てられる環境づくりが求められます。

また、少子高齢化と関連して、ひとり暮らしや夫婦のみの高齢者の世帯、子どもがいない世帯などが増えています。三世帯で同居する世帯も減って、世帯の少人数化が進み、家族で支え合う力も全体的にみると弱くなっているといえます。

■市民アンケート調査結果から

- ・60歳以上では「夫婦のみ」の世帯が最も多くなっています。



■ふくし井戸端会議（住民座談会）結果から

- ・結婚しない人が増えた。若者も少ないから、出生率が低下している。
- ・ひとり暮らしや夫婦のみの世帯で、親族とのつきあいもなく支援者がいない高齢者がいる。
- ・自分たちの地域の世帯主は全て65歳以上で、将来が不安だ。
- ・地域は高齢者ばかりで、災害時に支援したくてもできないのではないかと。

■関係団体ヒアリング調査結果から

- ・婚活に予算をとっているが、はたして出産・子育てにつながるのか。子どもを生み育てやすい環境づくりが必要だ。

②様々な生活課題や深刻な問題が起きています

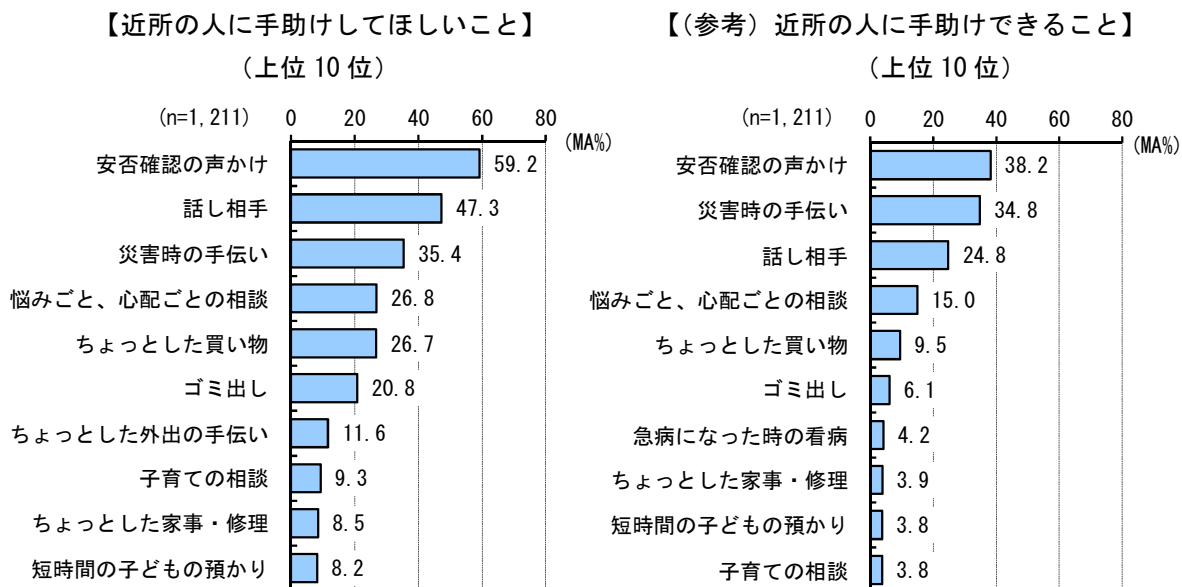
家族の支え合う力が弱くなってきており、また、近隣関係も昔のように親密ではなくなっている中、家事や力仕事などの日常生活のちょっとしたことを手助けしてもらいたいと思う人は多くいますが、困っているのに支えてくれる人が見つけれられない人なども増えてきていることが予測されます。

さらに、高齢者や子ども、障がい者などの立場の弱い人たちへの虐待や、誰にも気づかれずに亡くなる孤立死、自殺などの深刻な問題や空き家の増加、ゴミ屋敷などの問題も起こっています。こうした状況に対応していくために、地域において見守りや相談対応などの支援を充実していく必要があります。

また、生活保護を受ける人、さらに生活保護受給には至っていないけれども生活に困窮している人も増加しています。これらの人々は、単に経済面だけでなく、精神的な問題、家庭の問題、健康など複合的な問題を抱えており、様々な面から自立した生活を支援していくことが求められています。

■市民アンケート調査結果から

- ・近所の人にしてほしいことは「安否確認の声かけ」「災害時の手伝い」「話し相手」が多くなっています。



■ふくし井戸端会議（住民座談会）結果及び関係団体ヒアリング調査結果から

- ・親がイライラして子どもの虐待にはしる。親が元気になれば、子どもの安心につながる。親を支えるしくみが必要だ。
- ・ひきこもりが増えているが、ひきこもりは人によりパターンが様々で、対応が難しい。
- ・高齢者の虐待について聞いたことがあるが、家庭内のことがわからない。
- ・空き家が増えている。
- ・ゴミ屋敷になっている家がある。
- ・買物難民対策が急務。

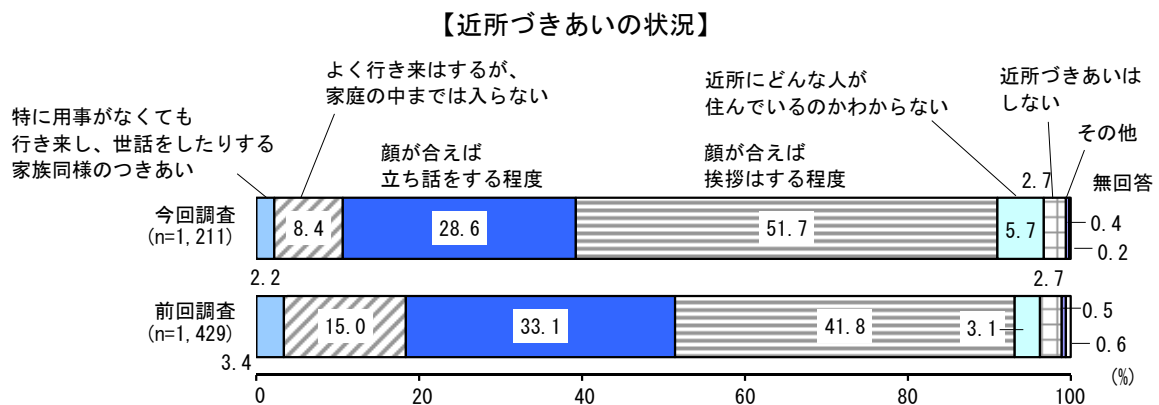
③近隣関係の希薄化、自治会未加入者の増加など、地域のつながりが弱くなっています

かつては、向こう三軒両隣で、日常的に助け合って暮らしていくのが普通でした。しかし、核家族化や都市化が進展し、個人生活やプライバシーを大事にするようになるとともに、地域での人と人のつながりが少なくなってきました。家族のつながりも弱くなり、さらに仕事でのつながりも変化し、自治会など地域組織への加入率も低下してきて、孤立に苦しむ人も増えています。

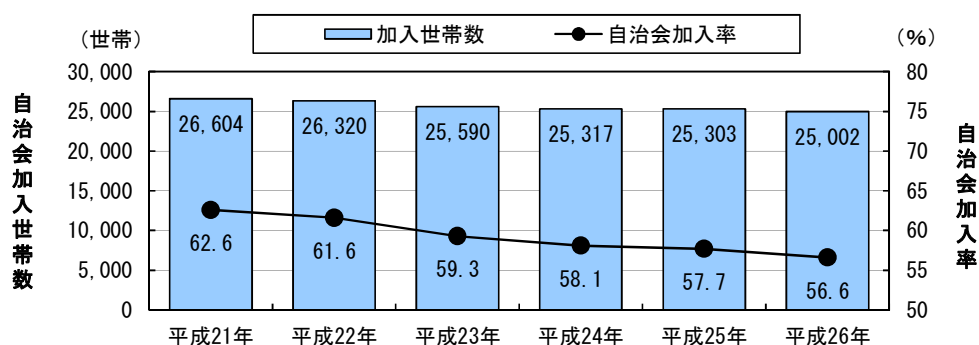
個人のプライバシーはもちろん守られなければなりません。日常的なつながりはもとより、いざというときに支えあうためには、どこにどういう人が住んでおり、何ができて、何ができないのか、などの状況を共有しておくことが、不可欠の条件となっています。

■市民アンケート調査結果から

- ・前回調査（平成19年度）と比べると、近所づきあいの浅い人が増えています。



■自治会加入率の推移



■ふくし井戸端会議（住民座談会）結果・市民アンケート自由記入から

- ・自治会未加入世帯が増えている。新しい団地やマンションでは、自治会そのものがないところがある。ワンルームマンションが多く建ち、誰が住んでいるかもわからない。
- ・働いている家庭、転勤族が多いので、地域の絆づくりをどうしたらよいかわからない。
- ・昔に比べて地域交流、地域行事が少なくなっている。
- ・新しく引っ越しをしてきたら自治会に誘われもしないし、入れない。排他的な雰囲気だ。

④地域における福祉活動の担い手が不足しています

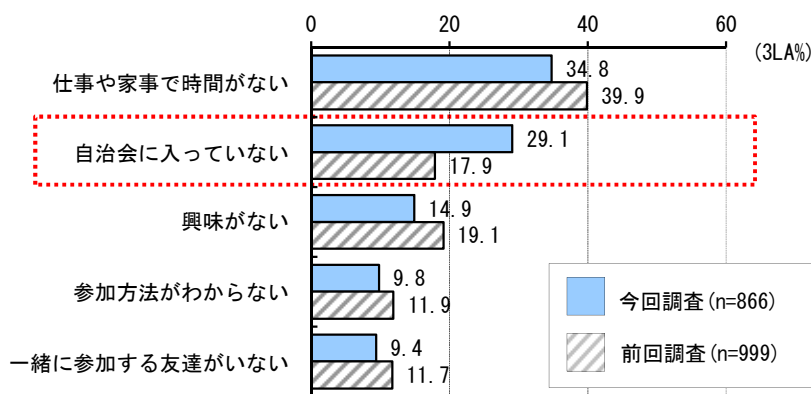
丸亀市では、様々な地域福祉活動が行われていますが、多くの団体が担い手の高齢化と、新たな担い手の確保について課題を抱えています。しかし、今は福祉活動をしていなくても、「今後は活動してみたい」と考えている人も少なくありません。地域福祉への理解を深め、参加意欲を実際の活動につなぐ取り組みを進めていくことで、新たな担い手を確保し、地域の福祉力を高めていくことが期待できます。

そのためには、担い手の負担を軽減する有償型の活動や、地域に密着したビジネスとして進める活動、少しの時間や簡単なことからでも活動できるしくみをつくるなど、活動への多様な参加方法も考えていく必要があります。

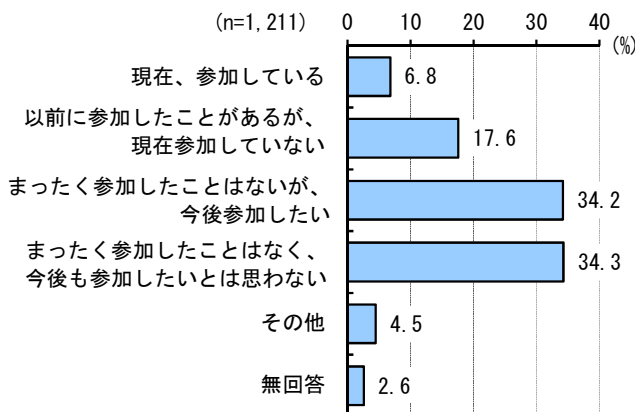
■市民アンケート調査結果から

- ・地域活動に参加していない理由は、前回調査と比べると「自治会に入っていないから」が大きく増加しており、自治会離れが地域活動の停滞の要因の一つになっています。
- ・ボランティア活動に現在参加しているのは1割未満ですが、「今後、参加したい」人は少なくありません。
- ・地域のボランティア活動を進める上で市が取り組む必要があることは、「金銭的な支援」「積極的な情報提供」「トラブル発生時の対応」「活動拠点」が多くなっています。

【現在、地域活動に参加していない理由】（上位5位）



【ボランティア活動の参加状況・意向】



【ボランティア活動を進める上で市が取り組む必要があること】（上位5位）

